“先生”は高校生

たんば子ども塾

小学生30人多彩に体験

丹波地域の高校に通う生徒が“先生”となり、小学生にさまざまな体験活動を提供する「たんば子ども塾」（丹波青少年本部主催）が9日まで、全6日間の日程で行われた。

3日目の1日には、篠山東雲高校で田んぼの生き物調査が催された。小学4－6年生24人が参加。同校自然科学部の6人は、子どもたちが捕まえた生き物の同定や生態解説を行い、生き物の不思議と、地域の自然の奥深さを伝えていた。

同部が2017年に実習田の一部（約100平方㍍）を改修して造ったビオトープで実施した。子どもたちは、草が生い茂る湿地にたも網を手に飛び込み、次々に生き物を捕獲。あぜに並べた机の上に数多くの水槽やバットを置き、「しののめ水族館」と称して、種類ごとにそれら容器の中に放った。コオイムシやドジョウを中心に、スジエビ、アカハライモリ、マツモムシなど約15種類の生き物を確認した。

熱心に生態解説を行っていた　さん（2年、篠山中出身）と　さん（同）は、「最近の子はスマホばかりで生き物には興味がないと思っていたが、反応が良くてうれしかった」と言い、「ただ、子どもたちに分かりやすく楽しい説明をしていくためには、知識をもっと深める必要があり、飽きさせないしゃべり方の工夫も必要だと感じた」と話していた。

田んぼの中の生き物を探る参加者たち
＝丹波篠山市福住で（提供）

“電気ペン”で絵を描く参加者＝丹波市柏原町東奥で

7日には、柏原高校で開かれ、同校理科部の指導で身近なものを使った科学教室を楽しんだ。

電気の力で絵を描くコーナーでは、ヨウ化カリウム水溶液に電気を通して、ヨウ素を発生させる反応を利用。針金などで作ったペンに電池で通電し、同水溶液をしみ込ませたろ紙をなぞると、ヨウ素の色である茶色の字や絵が書けた。

絵を描くのが好きという　さん（味間小5年）と　さん（八上小5年）は、「動物の絵を描いた。何で描けるのか不思議」と話していた。

同塾は、世代間交流と各高校のPRなどを目的に2000年から実施。今年度は丹波市から16人、丹波篠山市から13人、丹波篠山産業高校を最初に、8月9日まで、プログラミング教室や科学教室、調理実習など、各校の特色を生かした計6講座を開いた。

2023年8月20日
丹波新聞